



第 100 卷 総目次

平成 29 (2017) 年

第一〇〇卷 第一号 特集 海

特集「海」に寄せて……………吉井秀夫…一（一）

論 説

一八世紀フランスにおける沿岸貿易船の船長たち……………君塚弘恭…一（三）

一九世紀中葉フランス植民地拡大における
海港都市マルセイユ商人の役割……………杉本宗子…一（四〇）

近世の鯨と幕藩領主……………東幸代…一（七四）

清末西江の「海賊」……………村上衛…一（一〇六）

第二次台湾海峡危機とアメリカ合衆国の台湾政策……………吹戸真実…一（一四一）

「海 of 古墳」研究の意義、限界、展望……………魚津知克…一（一七八）

【論 説】

紀元前四世紀アテナイにおける銀行家ネットワークの性質と機能……………杉本陽奈子…二（二三三）

享保期の上方面における幕府広域支配と大名預所……………島本多敬…二（二六八）

日本近代都市における水利事業の展開と慣行水利権……………白木正俊…二（三〇三）

清代外モンゴルのセチエン・ハン部における盟界画定の経緯……………朝魯孟格日勒…三（三六一）

平安貴族社会と「貴種」……………金玄耿…四（四六五）

十七世紀後半の日朝関係と対馬藩……………李咳鎮…四（四九一）

一九世紀中葉から二〇世紀初頭における	浮網佳苗	五 (五四五)
イギリス協同組合運動の展開と言語	藤井崇史	五 (五八二)
連合国経済会議 (一九一六年) と日本	小塩慶	六 (六四一)
国風文化期における中国文化受容	丘凡真・李在璟	六 (六七八)
崇徳元年 (一六三六) の外藩蒙古会盟と丙子胡乱	金玄耿 (訳)	

【研究ノート】

雲叔玄籠	林晃弘	三 (三八九)
莊園景観の文化財化をめぐる価値づけと地域住民	桑林賢治	三 (四〇三)

【特別寄稿】

『史林』と京大東洋史学	礪波護	六 (七〇七)
ニューヒストリー (New History) の百年	紀平英作	六 (七二四)
学際誌『史林』——地理学の立場から	金田章裕	六 (七三八)
『史林』のなかの考古学	上原真人	六 (七四三)

【書評】

服部良久編著『コミュニケーションから読む 中近世ヨーロッパ史』	笈川侑也・櫻田宗紀・藤田風花・増永菜生	二 (三三八)
小野容照著『帝国日本と朝鮮野球』	高嶋航	二 (三四五)

斯波照雄・玉木俊明編著『北海・バルト海の商業世界』	元根 範子	四 (五二八)
小林茂編『近代日本の海外地理情報収集と初期外邦図』	石原 潤	五 (六一六)
柴田陽一著『帝国日本と地政学』	山崎 孝史	五 (六二三)
俣野好治著『律令財政と荷札木簡』	吉野 秋二	六 (七五八)
小林和幸著『国民主義』の時代』	吉田 武弘	六 (七六四)
小野沢透著『幻の同盟 冷戦初期アメリカの中東政策』	菅 英輝	六 (七七一)
ブルノ・タウトに関する研究の動向	北村 昌史	三 (四二七)

【紹介】

関哲行・踊共二著『忘れられたマイノリティ』	吉田 瞳	二 (三五二)
猪飼隆明著『近代日本におけるハンセン病政策の成立と病者たち』	扨 素妍	三 (四五五)
ピーター・マクフィー著(高橋暁生訳)『ロベスピエール』	山中 聡	四 (五三五)
岡村秀典著『鏡が語る古代史』	馬 渕一輝	五 (六三〇)
深沢克己著『マルセイユの都市空間』	谷口 良生	五 (六三一)
亀田俊和著『観応の擾乱』	板谷 寿美	六 (七七八)

【会告】

二〇一六年度史学研究会大会・公開シンポジウムの記録(歴史研究の過去・現在・未来)	一	(二二二)
パネル討論の記録	一	(二二二)

二〇一六年度史学研究会総会・大会の記録	一	(二一五)
理事・評議委員会報告	四	(五三六)
史学研究会役員	四	(五三九)